

昭和15年8月1日（木）

台風は上海方面に進路を転じ、当地方は幾分風あるも、異状を認めず。八時四十分、角野歯科医かかり行く。先客六名あり。先生既に診療に着手。一時間余、待居る。此日、道子貢氏連名にて手紙来たり居る。恠（あや）しく手震ふ。先ず格別のことなく嬉しかりし。胃病にて三日寝たる由。例の妙薬を頒與方、ミワさんに頼む。報告もの完了。栄町一丁目栗原フミ氏、宇佐に露店を出し品物を大阪に注文したるに、二十六日発送せりと云ふも到着せぬと云ふ。電報にて大阪南区松屋町31、渡辺栄一商店に照会す。返信、局留めにて到着に付き、之を宇佐に再送す。

昭和15年8月2日（金）

晴れ。午後より葉書受取に中津局行く。販りて水浴す。温度上昇。西牟田氏欠勤。腎盂炎として診断書提出あり。二週間の届けとなり居る。郵便物数報告。森田氏、昨、販宅後着手の積もりにて関係引受帳類携帯されしが、防空演習燈火管制にて、中途にして休止の不得已に至り、再び持ち戻らる。余、其の後を引受け処理す。

昭和15年8月3日（土）

晴れ、所により驟雨ありと云ふ。森田さん出勤。八月一日報国債券一二回、当籤発表。其の結果を聞き、保管依頼者頗る多し。午前中殆ど之に没頭する。四時、経費増額11,90銭。給料分増に付き、各十銭を昇給せしむ。乃ち中尾1,10、西牟田1,10、森田95、野口92、計十二円を増す。野口氏4,50欠損。去る月二十七日扱い四十円払戻の結果、9,15追徴方通牒あり。名義人来た

り容易に出さず。余出て説諭す。遂に出す。其の他貯金問題多数あり。就中森田氏取扱い25に対し、報告二円五十銭あり。午後七時五十分までかかる。

昭和15年8月4日（日）

晴れ、後雷雨。髭剃りす。朝の間に便所掃除。次いで仏壇掃除せられ清浄の気漂ふを認め、経を揚ぐ。八時四十分頃、角野医かかり行く。二時間近く待つ。此の間新聞を見、聊か退屈せざりし。金冠出来上がり、漸く完了を見たり。四十五円に勉強して下さる。尤も左の方、金冠二枚は下に出す。十一時過ぎ帰宅。ミワ氏のぼせにて歯痛続いて診て貰う。降雨、少時涼しくなる。

昭和15年8月5日（月）

朝森田さん出勤せず。余乃ち八時前出勤。表戸を開扉し郵便受付に頑張る。かなり多忙を極め、野口氏補助。ミワ氏も手伝ふ。九時半森田さん来る。午前中応援、午後より事務概要表物数調査に着手。午後十時に及ぶ。水にて身体を洗い流し、寝る時は十時半頃なりけん。ミワ氏歯痛歇まず。欄干（らんかん）にて繃帯しつつあり。新聞も見ること能わざりし。晴れ、驟雨の地方あり。

昭和15年8月6日（火）

晴れ。午後0時20分葉書受取りに行く。豊前銀行より印紙500余円買受け方申し出ありとて、西野氏より照会越しあり。次に森久より同断。庶務に電話諒承を得、午後0時30分出発。恰度局長室にて打合せ居れり。其の間、少時俟つ。誰か余が待居る旨伝ひしむ。一時十分頃、漸く解散。印紙を貰ひ販る。続いて栄町に栗原ふみを訪

ぬ。言葉にて東北人たることを認め、尋ねたるに若松の人。一の丁に居りしと云ふ。震災以前九州に見えたる由。40銭は夕方持行くと云ふ。即ち帰る。遂に不来。

昭和15年8月7日（水）

晴れ、後曇り。二時頃より少雨、次第に本降りらしくなる。夜、余留守。挙家、風呂に行く。秀夫より一日付き書記昇格。昭和四年九月、書記補拝命以来十一年の長期に渉れる由。広美は五十円となり依頼免。昨日及び本日午後、ぜんざい（東京峯氏よりの小包）頂く。此の朝その為か、腹融ける感あり。鶴居より明日余の二階を借り、市内のみ打合会を開催の旨、通牒越さる。夕方冷氣、気迷い温度らし。

昭和15年8月8日（木）

曇り後雨。正午時頃より幾分霽れ気味。朝髯剃り。午後リノルーム破損修理。午後一時、葉書受取りに中津局行き。午後四時栄町町長、次いで鶴居局長、一つ松代理、最後豊後町長来。二階にて打合会開催。茶菓を餐す。英霊来、国旗樹つ。六時打合会終了。事務員養成問題に付き、大分に於いて開催の由にて、大要左の如き報告あり。養成定員二十名。南北を合併して、都市のみの無集配三等局員を以てす。総経費1,522円。一日手当額、一人55銭、三ヶ月990円。内訳講師374円、会場費30円、雑費140。講師は修身公民。体操を中等学校より雇い入れ、他は大分局主事之に当たる。入学者には右の外、大分市内は0、別府は5銭、中津10銭の補給あり。補助金は局長会より負担、計60円となる。九月より入学、中津より二名選出。此の夜ミワ氏をして、坂巻の転勤に

付き申入れをなせり。十一時までかかる。今日立秋、風冷ややかなり。

昭和15年8月9日（金）

曇り、後少雨。四時頃より曇り。野口氏恙（つつが）あり。余飛出したるも不得要領。野口氏の体温三十六度余、遂に遣り通す。森田氏の父親、求菩提山にて修養会を卒へて、飯りに昨西牟田氏宅に泊まり、今日余を訪ねらる。超待ち心地にて居りしも、遂に不来。風冷たかり。此の夜早寝。

昭和15年8月10日（土）

朝より降雨、午後より歇む。午前八時、森田氏父親来。二階にて色々話す。求菩提山にて修養努められたる丈けに、常人と異なりたるものあり。森田さんに対しても、西牟田氏の代わりに勤め得る体力を羸（か）ちたるは嬉しと思ひて努力せよ、又其の心ならば、絶対に病氣することなしと注意せりと仰言る。昼食を差上げて、午後三時三分の汽車にて出発さる。五十銭饅頭、土産に差上ぐ。汽車ホームまでミワさんと送る。三時十分、中津局に葉書受取りに行く。七時四十分まで仕事す。森田氏、父と共に飯りたかりし如し。北野純一氏より来翰。十二三日頃、出征の由。七時退局。

昭和15年8月11日（日）

四時過ぎより降雨。車軸を下ろすが如し。黎明に及んで歇む。十時より出勤。八時退局。不用書類の整理に着手。稍冷涼の兆しあり。東京は秋口の感ありと云ふ。此の朝便所掃除、硝子拭き、叮嚀にす。鶴居局長より監察、明

後、日田經由来津の旨通知あり。市内各局へ通知を了せり。

昭和15年8月12日（月）

晴天。此日、窓口雑踏夥（おびただ）し。余手伝ふ。五月某日、西牟田氏汽車に乗り遅れ、其の間余為、坂巻より返信来る。縁なきものと諦め呉れとあり。森田氏等に物色を依頼す。野口氏郷里に照会して見んと云ふ。速達にて発送したり。椎田局代理通信手来局。電報不達事故に対して調査の結果、当務者過失と判明。目下当務者は病氣静養中とあり。申告者には余より適当に挨拶置くべしと約し、通信手は辞去せり。ミワ氏に挨拶に赴かしむ。偶々主人も来宅しあり。電報料を還付したる由。証券保管通帳に対する処理を誤り電話にて照会、処理を完了せり。八時まで居る。森田氏七時半帰る。余窓口四銭欠損。

昭和15年8月13日（火）

朝髯剃り。森田さん方、袴着け事務服着用。野口氏、之に倣ふ。切手請求、葉書なき為、余行かず。監察不来。昨野口氏事務員の件、再話題に上る。森田氏40銭以上欠損せる由。履歴書、森田氏七時まで居残り作成。保管物品帳簿と吻合せしむ。暑熱強し。森田氏父、玉五郎氏より葉書あり。窓口混雑、余手伝ふ。

昭和15年8月14日（水）

曇り晴れ、相半ばす。今日こそ監察来たらめ、多少不備の点、訂正を初む。履歴書、西牟田氏、其の弟君の代筆とかにて作成越せり。日附印検査簿、検査印洩れあり。

昨夜、窓口切手検査して貰ひしに、不足は参銭に過ぎざりしに気をよくせり。森田氏に、野口氏より咄せるらし。午後、中津局に資金参百円請求に行く。此日も監察見えず。窓口混雑。森田氏余程疲れて居るらしく、窓口にて居睡りし居る。六時過ぎとて成るべく驚かさぬ様、警戒せしも、野口氏が森田さんと謂ふた言葉で、無意識的に返事せしが、葉書を西牟田氏に遣り無理に森田氏を泊めることとせり。野口氏二階を清掃、蒲団を私方より貸与、蚊帳は六畳吊りとて、野口氏座敷に吊ることとし、余釘を打付け拵えたり。早く休ます。夜は八時を過ぐ。日附印検査簿、欠陥多きを発見、措置方法を研究す。十時過ぎ、余等は寢床。ミワ氏左腹痛み、電報送ること出来ず。

昭和15年8月15日（木）

晴れ。朝、日附印検査簿、夫々ミワ氏に訂正して貰う。朝森田氏も交え一緒に御飯頂く。白米注文す。三分の麦混入し居る由。一人前米二合、麦入りにて二合六分となる。三合を食ふ人は、四杓を麦にて求めざるべからずと云ふ。森田氏の為を計つて、西牟田氏母堂宛手紙発送。余の手許に引取ることを提議す。ミワ氏等風呂に行き、後刻、野口氏森田氏も行く。此の日九水より多数の書留通常、及び同小包受付あり。余登記す。蒸暑きこと甚だし。ミワ氏風呂に行き、野口氏ら後刻行く。

昭和15年8月16日（金）

晴れ。資金請求に行きたるに充実せし由。電話あり飯局。午後0時半、葉書受取りに行く。「なかなか売れますね」と女子員謂ふ。今日盆の入口。一昨日受付の特殊通常発送洩れ発見。監察を前にし、詢（まこと）に皮肉の事

故なるかな。森田さん如何なる遠慮か、正午汽車弁を取寄せ食す。此の日余の有する貯債、拾四枚百三十五円保管す。自炊問題で、野口氏と森田氏との間に妙な感情を醸す。余の家で下宿することを提案せしむ。秋永鶴居局長より電話。事務員に合格したる者ある由。夫れを世話し来る。明日秋永氏自ら連行する由、申出らる。夜読経、仏壇を食事する部屋に移し、装飾を加え、燈明を点けらる。

昭和15年8月17日（土）

朝、西牟田母堂より電話。森田氏、妹を西牟田氏宅に招くことは四五日後にせられたしとあり。蓋し、西牟田氏家族親戚等集合し、団欒の妨げたるを以てなるべし。夕方森田氏帰屋。午後一時、秋永氏事務員連れ（自転車パンク、事務員一足先に来る）臨局。書類一切提供。来たる月曜日より服務のことに咄あり。夕方ミワさん等、風呂に行かる。七時半退局。素麺の御馳走頂く。

昭和15年8月18日（日）

晴れ、例により便所掃除。森田氏朝定時出勤。平塚さんより葉書来。二十五日、当地一時間程立寄るとあり。森田氏八屋に行く筈を昼寝し、夕方、野口氏と金谷土堤に行く。夕飯赤飯頂く。監察、此日当地に来るとの報あり。各局に通知せり。夜に至り秋永局長、監察員を高本屋に訪ね夕食を共にし、飯りがけに立寄り、明日市内二局をやる旨咄さる。多少緊張せり。

昭和15年8月19日（月）

朝、髭剃りす。朝の間幾分涼し。伊勢武子氏来局。監察

豊後町を済まして栄町に行き、明日耶馬溪方面に行くと云ふ。夕刻栄町より通知。明日市内一局を見て、耶馬溪方面に向かふと。ミワさん今度は痔を悪くし、夜湯に行かる。巖、萩の餅持参。夕食後とて余頂かず。森田さん等に分配せしむ。巖、事務室に少し許り話し、間もなく戻る。監察、明日市内一局を見るらし。多分当局を見るものと思はる。

昭和15年8月20日（火）

朝七時過ぎ、秋永局長来。当局は最後の二十八九日頃と指示。此日、別府の会議に出席の由なり。後刻、鶴居局員より監察の日取り特定せしも、二三日早くなるかも知れずとのことなり。森田さん一時に駅に迎ふ、不来。更に三時に行かる。妹19、弟17、妹14来る。夕食五時前振舞ふ。電報発信多し。野口氏、巖方に行かる。蚊帖借用の為らし。経費の整理をやる。道（さすが）に夕方より涼風吹く。伊勢氏覚えよし。午後六時半、野口氏の後を追ひ母堂を残して外出。三百間に行く。海に浸り、申又を洗う具とす。九時飯宅。

昭和15年8月21日（水）

午後0時半、葉書取りに中津局行。概要表返戻され、進花子、貯金事故催促を受け、職員異動調表の提出遅延を難詰さる。但し後者は毎月一日提出居れり。森田さん一行自炊初む。夕方森田さん直ぐの妹、発熱37, 8。ミワさん、同様の熱発に悩みつつ仕事さる。七時過ぎ一旦引き上げ水浴せんとせしも、野口さん等入浴。ミワさん熱発の為、湯を使わず剩り居る為、余代わって頂く。夫れより電報を整理。八時過ぎ退局。森田さん方も早く休

養し、野口氏も九時寐に入りたる故、余も九時少し過ぎ寢床。

昭和15年8月22日（木）

午前八時少し過ぎ出局。掲示物の整理す。国債此日より売り出す。午後資金請求に行く。朝の間ミワさん発熱殆ど平温。午後より37, 9と上昇。七時過ぎ退局。集配時刻中島主事に質し調製す。主任の謂ふ処と聊か相違の点あり。森田さん父、玉五郎氏より葉書あり。松木氏より書留あり。道子の祝賀として、五円小為替券搜入あり。道子へ手紙書き、明朝送ることとせり。

昭和15年8月23日（金）

朝、蒲団上げたが余の誤り、一旦掃除をして再び敷けばよろしかりし。所謂病人扱いせざりしに對し、不満ありし如し。相談所行きを薦む。八時出発。電話せしに磯村氏も未だ見えずとのこと。八時五十三分着列車にて出勤するらし。医師は島原氏休暇にて福岡行き、土曜日帰津の由。代わりに八幡より来たり居ると。これも通勤のよし。患者多数詰めかけ、後の雁が先になる例多く、正午漸く帰局。処方箋に新薬島貴薬を指示。石黒にて発見、21粒にて4円。食後一二粒服し、一日4から6を吞服す。膀胱炎らし。尿意頻発、腰痛む、熱37, 78。此の日休養。食事は粥食を摂取す。鶴居より電話。日曜に監察来を告ぐ。不用書類整理に没頭。十時に寝ようとして電報原書の整理を忘る。乃ち、再び事務室に入り整理す。

昭和15年8月24日（土）

朝、耶馬溪局長臨局。毎日、監察と連行、見習いし居れ

る由。今日は再び鶴居監察、柿坂代理員見習いのことになし居れる由。少時話して退局。午後より切手売捌き人印鑑徴収に出掛け、蛭子町豊田町合同銀行近所と、諸町の各公場に至り、引き返して中津局に至る。請求数量、金額等に相違あり。訂正することとし職印持参す。朝は余程涼味を感じず。二郎保険北浦町とし来る。訂正方措置す。夕方森田氏弟妹等外出、買い物に行く。余理髪。電気理髪器具初めて見る。坊主頭にて30銭支払ふ。帰宅すれば戸締まりしあり。森田氏を呼び開けて貰ふ。二階に上がり色々咄す。今度の慰安会問題、余の腹案を述べ、師範の妹さんに来遊を促す。十時二十分寢床。ミワさん、病勢漸次良好の傾向に在り。

昭和15年8月25日（日）

晴ると思ひきや、朝来細雨。黎明と共に一時歇みたるも、八時頃より再び降り初む。勝元監察員臨局（八時四十分）。庶務会計郵便にて、午前中を終わり、午餐を接伴し、一時より為替貯金、保険年金、電報電話にて終了。指示口頭として、郵便軍事は部隊名を記入すること、内容証明は証明料を加ふること（郵便料を記入する場合）。新聞を発行人又は売渡人に於いて発送の場合、料金は120グラム5厘。為替は過誤金区切り発送を可とせずや、実況に応じ処理すること。電信話は郡内今津以外は電話にて送受すること。宛名等省略を要するものあり等々。二時二十分駅電話を見て中津局に至り、午後0時発小包の取集に赤の取集をなさしむことにせる由、電話あり。平塚さん遂に見えず。森田は弟妹昼食中、出発さると云ふ。四時頃、降雨甚だし。二階雨漏り数カ所。急に涼風。水浴後、着衣す。九時就寝。

昭和15年8月26日（月）

朝食事。博多駅発、平塚さんより午前十時「ナカツエキ
ツクカス ヒラツカ」とあり。「カス」の字判断に苦しむ。
問合わせの結果「ツウカス」の誤りと分かり、急に洋服
着用、10円を懐にし出発。靴足袋片方所在不明、百方
搜索するも不出。新品求め来る、六拾余銭。駅にて二等
急行を求め、二等車に駆け付く。平塚さんホームに降り
て待居る。乗り込み別府まで話す。東京逓信の監督課長
等幹部、市内局長連拾数名、宮崎聖地巡回の慰労出張
なり。昨夜坂本五郎氏、中島猪作氏を訪はれ、坂本氏
方に泊まる。名古屋博覧会に、道子出掛けたが、平塚
様に会ひたさに行きし由。平塚様の話にて初めて知る。
別府にて二時間程待ち、一時過ぎの列車にて三時帰着。
九時迄仕事せり。午後五時、鶴居局長臨局。大分に部
会長会議に出席。帰局の途、立寄らる。監察の模様を問
わる。此日、風北に廻り強風程度。台風四国沖通過、本
土に上陸の模様。各観測所、必死の観測陣を張る。夜、
寧ろ寒し。

昭和15年8月27日（火）

晴れ。来る九月一日、耶馬溪村役場にて講評会ありの通
牒来。不用式紙処分方、漸く本日提出せり。伊勢氏、洋
南瓜（かぼちゃ）持参。野口氏に小なる物分与す。煎り
子伊勢氏に土産す。ミワ氏平熱となり、午後より外出。
国債売り捌きの衛に当たり、百円一枚売る。夜母堂と風
呂行き。野口氏七時風呂に行く。森田静子氏より葉書あ
り、礼状なり。給料交付。伊勢氏に保険に加入せしめたる
由。事務服着用。時計下の硝子窓を取り附けたり。是

れまでは熱き為、開放し置けり。連日午後八時過ぎまで
頑張るたる為か、少々疲労を感ず。九時寢床。

昭和15年8月28日（水）

夜来甚だ冷ゆ。八時半より出局。午後西牟田氏より速達
便にて、更に十日間欠勤方申し出であり。夜に入り瀬下
久義氏の兄、海軍兵曹長、瀬下友衛氏来局。金鷄（き
んし）勲章問題に付き質問す。事務室に通して一切を通
告す。諒解して去る。北嶋米子払済み通知書に対し照会
あり。殿町に訪ね得たり。其の隣家に生長の家支部あり。
爰にも少時咄し、更に北崎氏宅に至りても色々咄す。巖
保険料のことにて来局。中津局に前納せる由。上津局長
臨局せしも、上がりず帰る。

昭和15年8月29日（木）

朝夕は余程凌ぎよくなる。ミワさん神詣で。国債売竭（つ）
くし、祈願に非ずやと思はる。午前中外出。昨長谷川氏
（西洋品雑貨）に国債の説明を三十分間なせるが、ミワ
さん同氏宅を訪ふに、ハンカチ二枚を求め、国債購入方
談判す。恰度同氏銀行より一千円請取り来たりしばかり、
之を百円以上全部振替えしむ。これにて今度の責任は解
除となる。重荷を下ろして50円券二枚を持ち、角野氏方
を訪ひ、遂にその二枚を購はしむ。是れにて責任解除と
なる。午後より曇天。五時半より、ミワさん局員を連れ活
動に行かる。伊勢氏に対しては、鶴居長に電話し諒解を
得しむ。夕食は森田さん分、副食物は我が方の残り分、
提供す。留守居は余、之に当たる。道子より返事来る。
道方松木氏に礼状送れる由。二郎問題詳細通知越せり。
水浴を了したる計りに、一円印紙十枚買い受けの者玄関

に音なふ。同時にベル鳴り出す。裸体の儘、電話に駆け込めば読み合わせ方申し出あり。之を済まして印紙を遣りたるに、速達を依頼する者あり。之を請取りたるに、再び来たり本局に持ち行けば間に合うかと質す。間に合うべき旨告ぐ。其の者急ぎ本局向け疾走す。活動写真見物の連中、十時近く皆帰宅。非常に面白かりし旨、咄さる。老人殊の外満足なるを欣ぶ。余は既に床に入り寝て居る。

昭和15年8月30日（金）

朝来降雨。午後より葉書受取りに本局行。時間外請求は、二時半頃、更に出掛く。蛭子町、近藤と云ふ焼諸屋の主人公来局。余、国債に就き説明す。千円券買受け申込みあり。電報にて逓信局に請求す。二度目に中津局（印紙臨時請求分）に至る際、途中に愛子に会す。智子弱き旨咄す。巖に留守居して貰ひ、買い物に出掛けたる由。誰も連行せず。中津局保険係岩永国広氏は添田の人なり。此日入営挨拶に来局。明朝八時過ぎの上りにて、熊本に出発の由。平塚さん宮崎より葉書送らる。

昭和15年8月31日（土）

朝来降雨、殆ど終日降る。八時髯剃り。駅に岩永氏を送る。入場券売らず。開札に断り、向こう側に行く。恰度、局関係者居る処に行き当て、同時に岩永氏に挨拶。両親にも面会し得たり。正午頃は同町内より出発の某氏を、此度はミワさんに送って貰ふ。神社に詣で駅に行き、歓送して五時頃飯局さる。更に髪結いに行かる。雨夕方、歇む。伊勢氏より無花果を貰ふ。猶、村上局長に駅にて面会。中島主事にも会ふ。八時半まで執務。九時退出。